

第 22 回ソウル国際総合電気機器展 2017 出展レポート

平成 29 年 12 月 6 日
(一社)日本電設工業協会
資 材 委 員 会

当協会の資材委員会は、平成 29 年 9 月 27 日(水)から 9 月 29 日(金)までの 3 日間、韓国電機産業振興會 (KOEMA) が主催する「第 22 回ソウル国際総合電気機器展 (Seoul International Electric Fair 2017 (SIEF2017))」に、JECA FAIR 2018 への出展誘致および当協会活動の案内を目的に出展した。

電気設備のメーカー団体である KOEMA と当協会は、両会の業界発展に資することを目的に、2003 年から相互の展示会に出展するとともに意見交換会を実施している。

SIEF2017 には、資材委員 2 名に派遣を依頼し、事務局と合わせて 3 名が参加した。詳細は以下の通りである。

1. 基本情報

①展示会名	第 22 回ソウル国際総合電気機器展 2017 Seoul International Electric Fair 2017 (SIEF2017) 公式サイト : http://www.sief.co.kr/sief_2017/english/main/main.html
②テ ー マ	Response to the Changing Needs (変化するニーズへの対応)
③主 催 者	韓国電機産業振興會 (KOEMA) ホームページ : http://www.koema.or.kr/koema_e/greeting/greeting.html 韓国電力公社 (KEPCO) ホームページ : http://home.kepcoco.kr/kepcoco/EN/main.do
④後 援	Ministry of Trade, Industry and Energy (産業通商資源部) ※日本の経済産業省に相当
⑤展示品目	発電用機器、電動機及び発電機、変圧器、遮断器、配電盤、静止機器、開閉装置、電線、配線器具、継電器、計測器、工具、LED 照明、再生可能エネルギー発電材料、その他電気機器 (重電機器を中心とした展示会)
⑥会 期	2017 年 9 月 27 日(水)~9 月 29 日(金)の 3 日間
⑦参 加 者	嶋田 雅景 副委員長 (㈱クリハラント会長) 富井 弘之 副委員長 (旭日電気工業㈱社長) 中根 洋樹 (事務局) 以上 3 名
⑧出展者数	242 社 (前年度 217 社)・434 小間 (前年度 430 小間)
⑨入場者数	約 20,000 人
⑩会 場	COEX ホール A (展示面積 10,368 m ²) (住所 : ソウル市江南区三成洞 159 番地)

2. 概要

第 22 回目の開催となった SIEF2017 は、ソウル市江南区の COEX1 階「ホール A(10,368 m²)」で開催された。

2 年前から、「Smart Grid Expo」、「Inter Battery」、「EV Seoul」、「International Climate Charge Expo」の 4 つの展示会と同日に開催し、SIEF と併せた 5 つの展示会を「Energy Plus」としてエネルギー関連の総合展示会と位置づけている。特に、2016 年 11 月に発効されたパリ協定により、再生可能エネルギーの普及とクリーン燃料発電の拡大、エネルギー効率の向上など、エネルギー産業が変化するニーズへ対応していくため、「Response to the Changing Needs」をテーマとしているのが特長である。

出展者数は昨年から 25 社増の 242 社、小間数は 4 小間増の 434 小間であり、JECA FAIR 2017 と比較すると出展者数はほぼ変わらないが、小間数・会場使用面積は約 3/5 程度の展示会である。

【参考】 JECA FAIR 2017 と SIEF2017 の比較

展示会名	JECA FAIR 2017	SIEF2017	JECA FAIR 2017 との比較 (差)
会場使用面積	17,020 m ² (東京ビッグサイト 東 1・2 ホール)	10,368 m ² (COEX ホール A)	6,652 m ²
出展者数	247 社	242 社	5 社
小間数	724 小間	434 小間	290 小間
1 社当たり小間数	2.9 小間	1.7 小間	1.2 小間
来場者数	103,384 人	20,000 人	83,384 人

3. 開会式・テープカット

例年、開場 (10 時) 後の 11 時から開催している開会式・テープカットは、今年は開場前の 9 時からホール B 前で開催された。

来賓による祝辞の後、来賓、関係団体、「Energy Plus」の各主催者代表者、出展代表者の総勢 12 名でテープカットが行われ、その後、一般来場者も開場となった。



【テープカットの様子】

4. 全体の配置と JECA ブースの位置

全体のレイアウト構成は、入口側に小さい小間を配置し、会場後方に装飾が華やかな大きい小間を配置したレイアウトで、JECA FAIR のそれと類似していた。

HYUNDAI ELECTRIC や HYOSUNG、LS などの大手重電メーカーは製品展示のほか、実際の現場での作業を体感できる VR を使って集客するなど賑わっていた。

一方、JECAブースが配置された会場入口付近は、同じような装飾が目立たなかったこともあり、閑散としていた。



【JECAブース前にて】



【会場全体図】

JECAブース

5. 日系企業の出展

日系企業は、共立電気計器(株)の代理店 (SEJIN INSTRUMENT CO.,LTD.)、(株)東和サプライの代理店(LK HOLDINGS)、(一社)日本電設工業協会(JECA)の3社・団体の出展であった。例年出展していた(株)東光高岳の子会社(TAKAOKA TOKO CO.,LTD)は出展を見送ったようであり、日系企業の出展は年々減少している。

6. JECA FAIR 2018 の出展誘致活動

海外の展示会へ出展する決め手は、自国の景気や経済状況に加え、国からの助成金などの支援策も影響が大きい。JECA FAIR の海外出展企業数は浮き沈みはあるものの、直近5年平均で13.6社、全出展者に対する割合は6.2%程度である。JECA FAIR 2017では海外企業の割合を増やすべく、出展要請活動を積極的に実施し、その結果前年比7社増となった。海外出展企業の中でも韓国企業の割合は約4割を占める重要国であることから、SIEF 2017において主要企業のブースを直接訪問し、ハンゲル版の出展概要を用いて出展要請を行った。JECA FAIR 2018に多くの韓国企業が出展することに期待したい。

7. 商談会の開催

会場内では、韓国企業の電気産業関連資機材や設備の分野（送配電、発電、原子力、鉄道、電気、照明など）の輸出拡大を目的とした商談会「Biz meeting」が開催されていた。海外（主に中東・中南米）から招待したバイヤーのための特別な商談会であり、参加企業数は韓国企業 112 社、バイヤーの参加者数は 150 名程であった。

後日 KOEMA 事務局へ尋ねたところ、会期中の契約額は約 50,000USD とのことで、次回も KOTORA（大韓貿易投資振興公社）と共同で開催する予定のようである。



【商談会 会場入り口】

8. KOEMA の張会長と意見交換会

会期前日、KOEMA の張会長と宋副会長、李理事、朴室長の 4 名と意見交換会を実施し、5 月の JECA FAIR 2017 への出展御礼を行うとともに、JECA FAIR 2018 への出展をお願いした。

張会長からは、日本の株価は上昇し景気が回復してきたように思える。韓国は短期経済指標だけ見れば企業の業績が回復していると解釈できるが、長期的な流れを見れば依然として成長が停滞した状況である。両国の経済発展のために今後も交流を深めていきたいという話があった。



【開場式後の張会長（中央）と記念撮影】

9. セミナー・技術発表等

会期 3 日間を通して COEX の 3 階会議室で、再生可能エネルギーの事故事例や将来展望、人工知能による制御技術、IoT を駆使したソリューションの開発などの講演会、技術発表を積極的に開催していた（51 テーマ）。

10. まとめ

会期初日は雨が降り気温も低かったことから来場者数が少なく感じたが、大手メーカーのブースでは、VR（Virtual Reality）等を駆使した製品の実演を行うなど、新たな取り組みを導入していたのが印象的である。特に、若年層の来場者が目についたことから、VR の実演は相応しく効果的な取り組みであると感じた。

出品傾向はパリ協定の採択を受けて、再生可能エネルギーやクリーン発電に力を入れているという割には、太陽光パネルや風力などの再生可能エネルギー製品は数少なく、一方で、EV（電気自動車）充電スタンドが例年よりも多く展示されていた。その背景には、車社会である韓国にとって排ガスの抑制が重要な問題となっており、韓国の国政 5 ヶ年計画

において 2022 年までに電気自動車の登録台数を 35 万台に増やす目標が影響していると推測する。

日本にとって韓国は第 3 位の、韓国にとって日本は第 3 位の貿易相手国であるが、2016 年の二国間の貿易総額は対前年比 9.7%減の約 7.74 兆円。2016 年の対韓投資額は前年比 25.2%減の 12.5 億ドルと減少している。10 年前には、韓国の重要な販路拡大の相手先は距離的にも近い日本や中国であったが、SIEF の商談会で中東や中南米のバイヤーを特別招待するなど、他地域にシフトしてきているように感じた。



【会場内の様子】

11. 次回の SIEF2018

2018 年 10 月 10 日（水）から 12 日（金）に COEX Hall C で開催予定である。

以上